とうきょうすくわくプログラム

活動テーマ１「英語を日常的に使った保育やアクティビティー」

テーマの設定理由

母国語である日本語を習得する大切な幼少期に母国語以外の言語に触れることで言語習得の奥行きやアイデンティティーを形成する上でのきっかけに繋がる事を目的としています。また、コミュニケーションツールとして遊びや生活習慣の流れの中で母国語と同じように自然に発話することを促すように保育者も積極的に関わるよう心掛けています。

具体的な取り組みについて

当園ではネイティブスピーカーも保育者として日常の保育に密接に関わっています。保育の隙間時間に行う読み聞かせや集団遊びを担当してもらったり、普段の遊びの中でも英語で積極的に声掛けなどを行っています。また、マラソンや体操時に子どもたちに声掛けをする日本語のフレーズを英語に言い換えてもらうなどの臨機応変な対応を行ない、英語耳を自然に身につける工夫を行なっています。

子どもの姿・声や保育者との関わりの様子の変化について

自由遊び中にネイティブスピーカーの先生とのやり取りで自然に英語で「こっちに来て！」「ありがとう！」「一緒に遊ぼう！」と声を掛ける子が増えたのを感じます。また、英語の絵本の読み聞かせでは、ネイティブスピーカーからの質問や声掛けに自信を持って英語で答えたり、同じフレーズを発音よくリピートしたり、ジェスチャーを真似したりする姿が見られるようになりました。更に、ネイティブスピーカーが提案する集団ゲームで英語を自然に発話しながら楽しんでいる様子が日常的に見られるようになりました。このように、子どもたちが英語に対して積極的に抵抗なく接している姿からは、母国語と同様に英語もまた自己表現や生活手段としての言語と捉えて、自然に吸収しようとする適応力の高さを感じ驚かされます。

子どもたちから学んだこと

おとなは上手く話さなければいけないというプレッシャーから英語に対して始めから抵抗を抱いてしまう傾向があります。けれども幼少期のこどもはとても自然に英語の表現を受け入れて、ネイティブスピーカーの保育者と一緒に遊んだり、困った時も英語で発話して英語も母国語同様に自分を守り、自己表現の手段として吸収し身につけていく過程を子どもたちの姿から学ぶことができました。
おとなの私たちが頭で考えてしまい、勇気を持って踏み出せなかった領域である、本来あるべき言語習得の過程や原理を子どもたち自身から教えてもらったようで新鮮な発見をすることができました。

Are you ready ?

Yeah !!

とうきょうすくわくプログラム

活動テーマ２「絵本や紙芝居、お話を通して想像力や聞く力を育てる」

テーマの設定理由

視覚的教材としての絵本・紙芝居・パネルシアターや聴覚教材としてのお話などは想像力や聞く力を育てたり、審美眼や非認知能力を養うことに繋がります。当園ではそうした活動を日常の保育の中で積極的に取り入れていますが、更にそれらを通して子どもたちが感じたことや考えたことを自由画や製作に発展的に表現する活動へと繋げていき、より豊かな表現力や創造性・情緒や感性を豊かに育成する保育を心掛けています。

具体的な取り組みについて

1.製作や自由画に繋がるようなテーマを探して絵本や紙芝居を選ぶ
※（例）絵本『にじいろのさかな』、お話『アナンシと五』、紙芝居『あひるの王様』
2.読後に子どもたちに感じたことや考えたことを聞き取る
3.発表の際に自由画や製作などの手法を自由に使って表現してもらう
4.作品をもとに感じたことや考えを発表し合い、自分とは異なる考えや感性を知り、また共感する部分を共有し合う。
5.発展的な表現活動として、作品から得たインスピレーションから音楽的表現に繋げてオリジナルなメロディーや歌詞を創作して楽器などで表現してみる

子どもの変化や姿から保育者が学んだこと

子どもたちは本来、絵本や紙芝居の読み聞かせやお話をしてもらうことが大好きなので、日常的に保育の中で積極的に行なっていますが、作品から感じたことや考えたことを引き出して表現する活動に発展的につなげることはこれまで多く行なって来ませんでした。今回、すくわくプログラムの導入をきっかけに実践したところ、子どもたち自身がこれまで気づかなかったお互いの個性に気づいたり、仲間と共感し合う楽しさを経験したりと新しい発見が多く見られました。例えば、あまり絵本などの読み聞かせを好まずにいつも居眠りをしてしまう子どもがお話と言う視覚媒体を持たない世界にとても興味を持って、お話で聞いたイメージを自由画に描き起こして紙芝居を創作して発表する姿も見られました。このように保育者自身も子どもたち一人一人が持つ豊かな感性や想像力から繰り広げられるしなやかな創造性に改めて気付かされ、貴重な気づきを得ることができました。

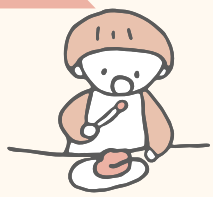
園庭に紙芝居屋さん
がやってきた！

パネルシアターで
楽しいお話の時間

絵本『にじいろのさかな』
から想像した絵を
描いているよ

お話を聞いて
続きのお話を作って
発表したよ！

とうきょうすくわくプログラム



活動テーマ３「食育：食用植物の栽培・収穫」

テーマの設定理由

当園の園庭の一角を改修して、子どもたちが手入れをしやすいロケーションで畑を造営して食用野菜を栽培しています。植物を育てる経験を通して種から花をつけて実になる過程を五感を感じつつ観察して記録をしていきます。また、植物の生態を図鑑絵本などを調べて学んだり、計画的に取り組みながら種植え、間引き、水やりなどの作業を仲間と協力して行う体験を通して探究心や協調性を育むことを目的としています。更に、大切に育てた野菜を実際に収穫して食することで、豊かな情緒の育成や食育に繋げていきます。

具体的な取り組みについて

1.季節ごとにどんな植物が育てられるか、子どもたちと一緒に図鑑や絵本で調べてみる。
　※春植えで夏季に収穫できる食用植物「きゅうり」などを令和6年度は育てる計画を立てた。
2.植物の生態について、種から芽が出て花が咲いて実がなる過程を絵本や図鑑を通して学ぶ。また成長の過程で植物には何が必要か？「水」「太陽の光」「養分」「葉緑素」の関係性と光合成の仕組みについても幼児にわかりやすく伝えるよう努めた。
3.植物には様々な種類があるが、同じ種類のものは実がなる過程が同じであること、また実のなり方は植物の種類によって異なることなどに身近な野菜を例に発展的に学ぶ。（例）きゅうり・トマト・なす・ピーマンなどは花が咲いてから実がなる。一方でさつまいも・ジャガイモなどは花は咲くが実は地中の根にできる植物であることに気づく。
4.自分たちで毎日水やりや間引き、虫取りなどを行なって育てる経験を通して豊かな情緒の育成を図る。
5.野菜を育てるのと並行して、例年梅雨時期に味噌を大豆や麦などから手作りしているので、野菜を収穫した際に味噌と一緒に食することで食育につなげる。

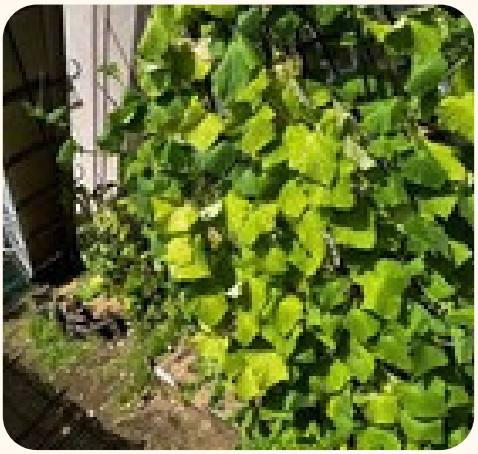
子どもの姿・声や保育者との関わりの様子の変化について

植物図鑑や絵本を使って調べる活動を通して絵本などに興味を持つ子が増えました。また、畑の耕作用具と植物の栽培用具や種苗などを初めて見たり触ったり、実際に使うことを通して、経験値が上がり、自信に繋がって意欲的になる子どもが増えました。収穫後に自分たちで調理をすることで、食べることに興味を持ったり、苦手な食べ物に自ら挑戦して食べられるようになる子もいました。また、保育者自身も子どもたちと一緒に活動することで、これまで以上に子どもたちの持つ潜在能力や個性を見出すきっかけになり、新鮮な驚きと喜びを得られて貴重な経験になりました。

子どもたちから学んだこと

食育に関する探索活動を通して、子どもたちの知的好奇心がより一層育ち、積極性や自律心といった他の側面も相乗的に成長した子どもが多く見られました。また、植物の栽培を通して子どもたちの情緒や感性がとても豊かになったと感じています。

きゅうりの種を植えたよ
大きく大きくなあれ！



園庭の畑できゅうりを
育てたよ！

自分で育てたきゅうりと
手作りのお味噌で
いただきます♪